

## 日中友好協会 八王子支部ニュース



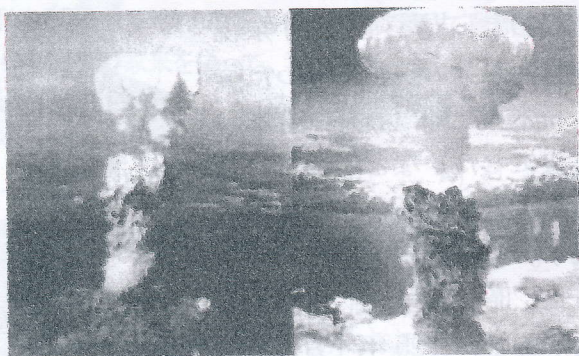
みんなで参加・多彩な活動! 上げよう・大きな“わ”! 佐藤副支部長: FAX:042-645-8415

2022. 12. 21~26

八王子市非核平和都市宣言から40年

## 「731部隊・原爆・ビキニ」展はじまる

1932年から日本軍は中国東北地方に日本の傀儡国家「満州国」を建国し、細菌戦研究を本格的に始めました。30年代の後半には、平房に731部隊を創設して人体実験を繰り返しながら細菌兵器を製造し1940年代には農安、寧波、常德などの都市にペスト菌などを使用して細菌戦を行ないました。



広島 長崎  
原子爆弾の投下によって発生したキノコ雲

1945年8月にアメリカが広島・長崎へ原爆を投下し、ソ連が参戦すると、ポツダム宣言を条件付きで受け入れ、日本は敗戦を認めました。原爆投下後の広島・長崎の惨状は、あまりに悲惨であり、残留放射線により人々は苦しみました。

そんな中で、日本は科学者・医学者(元731部隊関係者もいました)を総動員して、原爆の威力調査に取り組み、原爆の破壊力や放射線が人体に及ぼす影響を詳しく調べ181冊の報告書にまとめ、アメリカに渡していました。その報告書は、被爆者の治療にいかされることはなく、アメリカとの敗戦処理を有利にするために使われました。アメリカは核戦略の一環として、1947年からABCC(原爆傷害調査委員会)を広島・長崎に設立し、被爆者の症状の追跡調査を開始しました。そこでは、放射線の人体に与える影響が調べられ、治療は全くされませんでした。ABCCには国立予防衛生研究所(予研)が全面的に協力しました。

その予研の歴代所長には、731部隊関係者が連なっています。

1954年、ビキニ環礁でアメリカの水爆実験が行なわれると、日本の船舶艇1000隻が被ばくしました。もっぱら第五福竜丸だけが、クローズアップされ、見舞金として200万ドルが日本政府に支払われましたが、他の被災船の乗組員は全く無視されました。この水爆実験の被ばく調査にも元731部隊関係者が協力しています。

ビキニ水爆実験により、原水爆禁止運動が盛り上がり、世界大会が開かれるようになりますが、一方でアメリカと新聞社が共催して、「原子力平和利用博覧会」を全国で実施し、原子力発電政策を推進していきます。最近の「黒い雨訴訟」での被爆者の勝訴。そして今、ビキニ事件の高知の被ばく者たちが立ち上がり裁判を始めています。この時期に、日本の過去を振り返り、今一度「731部隊・原爆・ビキニ」の影響を考えてみませんか??



ビキニ水爆実験のキノコ雲

12月21日(水)~26日(月)

10:00~19:00(26日は、15:00まで)

会場: 八王子市中央図書館地下展示室

資料提供: 広島平和記念資料館、第五福竜丸展示館、太平洋核被災支援センター

主催: 731部隊展実行委員会

日中友好協会八王子支部

八王子平和・原爆資料館

協力: 八王子平和市民連絡会

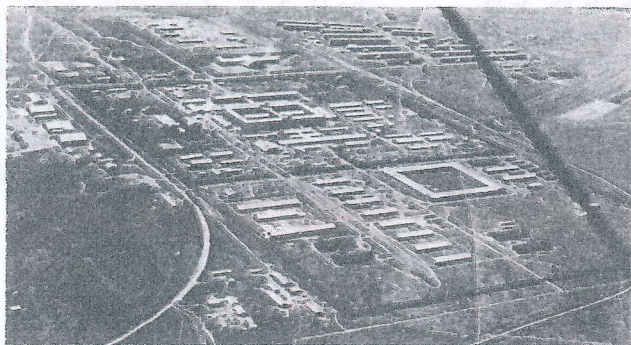
問い合わせ: 080-4407-9554 (五井)

マスク着用で  
お願いします!

入場無料



前回書いたように、中国東北部（「満州」）に約8 km<sup>2</sup>の土地に、いろいろな研究施設、実験棟を建てました。その土地は、勿論、そこに住んでいた中国の人々を追い出して、作ったのです。その前には、背蔭河に施設を作り、そこで、被験者が脱走する事件が起きています。



なぜ、日本は、このような施設を作ったのでしょうか？1914年～1918年にヨーロッパを主戦場に行なわれた第1次世界大戦では、戦闘機や戦車といった近代兵器が登場し、大量殺戮が可能になりました。また、毒ガスを双方で使い、多くの死傷者を出したり、後遺症で苦しむ人々もたくさんいました。戦闘中の恐怖から神経を病む、戦争神経症も問題になりました。1920年のパリ講和会議の後、世界平和の確保と国際協力の促進を目的として、国際連盟が発足しました。1925年には、毒ガスや細菌兵器の使用を禁止するジュネーブ議定書が作成され、日本も署名していますが、批准はしませんでした。ヨーロッパでは毒ガスと細菌兵器の使用が問題になっていたのです。

『細菌戦争の世紀』（トム・マンゴールドとジェフ・ゴールドバーク著・原書房）には、

「日本が生物戦に関心を持ったのは、第1次世界大戦の終り頃だったが、正式な計画ができあがったのは、今は悪名の知れ渡った石井四郎が出現してからだった。才能あふれる医学部大学院生だった石井は、1926年の終わるか27年の初めに微生物学で医学博士号を取得し、科学雑誌に論文を発表しながら、医学研究者としての名声を築いていた。この時代に、彼は生物戦に関する報告書を読み、大きな影響を受けた。その報告書は、陸軍省医務局の原田二等軍医（中尉）が書いたものだった。化学・生物兵器を禁じた、1925年のジュネーブ軍縮会議での議論が中心の内容となってい

た。日本では、その報告書はあまり大きな反響を呼ばなかったが、石井は特に共鳴し、生物戦のどてつもない可能性を知って仰天したのだった。この時、この分野に対する彼の異常ともいえる執念が生まれた」と書いてあります。

のちに731部隊の初代隊長になる石井四郎は、このようにジュネーブ議定書の報告書を読み、生物戦（細菌戦）に関心を抱いたと書いてあります。

大学の時の恩師は、清野謙次、大学卒業後、軍医になり、そこで出会った、梶塚隆二や小泉親彦、また京大の院生になった時の、荒木寅三郎（石井は荒木の娘を妻にした）などの出会いも、石井に大きな影響を与えたと思います。

また、昭和天皇も、生物学に関心があり、1925年4月に赤坂離宮内に生物学御研究所を建てています。その昭和天皇の「即位の大礼」が行なわれた1928

（昭和3）年に、石井は2年間のヨーロッパに視察旅行に出たことも、何かしら、大きな意味があると思います。その年に、日本は、ジュネーブ議定書の批准を見送っています。

石井四郎が海外視察に出かけている1929年11月7日には、新築された陸軍軍医学校を昭和天皇が視察しています。天皇をその時に案内したのは、のちに軍医学校校長や厚生大臣になる小泉親彦でした。その年の暮れに、小泉は、昭和天皇にご進講しています。

731部隊の中国東北部に作られた大きな施設は、特別な国家予算によって建てられたものであり、天皇・軍の大きなバックアップがあつて初めて可能になったのです。



清野謙次



荒木寅三郎



梶塚隆二



小泉親彦





公孫瓚はこの話を聞くと、怒りで震えながら、歯ざしりして「袁紹は私をだまして韓馥を攻撃させ、それに乗じて冀州を奪取し、さらに董卓の家来を偽って、我が弟を殺害した！この恨みを晴らすにおくべきか」と言った。(三国志演義より)

この若者の武勇たるや文醜に引けを取らず、公孫瓚とこの若者の二人を相手にしなければならなくなった文醜は冀州へと引き返していった。公孫瓚は、この若者にぜひ自分のもとで働いてもらいたいと請うが、この若者は配下でなければ構わないと、居候のみとして公孫瓚の軍に加わることを約束したのであった。

この若者こそ、三国志でも人氣の高い常山の趙子龍（趙雲）であった。

（けやき総合法律事務所）

袁紹は、冀州に入城した。公孫瓚は、袁紹から共に冀州を攻略しようとの文を得ていたのにも関わらず、袁紹の大軍が冀州に入城していることを訝しんだ。間者に探らせる、冀州は既に袁紹が実権を握り、韓馥は張邈のもとに逃げた後であった。公孫瓚は、事態の状況を説明させるために袁紹のもとに自らの弟である公孫越を使者として送った。

袁紹は、公孫越を宴を開いて接待したものの、冀州の分割は込み入った内容になるため、公孫瓚本人に向いてもらう必要があると伝えて公孫越を公孫瓚の陣に帰したのであった。公孫越は、自陣に戻る際、袁紹の手先の闇討ちにあい亡くなった。

公孫瓚は、この報を聞き、激高して、冀州に攻め入ろうとした。袁紹軍と公孫瓚軍は、冀州の境の磐河で激突した。

公孫瓚軍は士気も高くよく戦ったが、渤海一の豪傑と呼ばれる文醜が袁紹軍にはいなかった。この文醜の軍に公孫瓚はのまれ、公孫瓚は文醜にあわや討ち取られるというところまで追い詰められた。敗走する公孫瓚は文醜と一騎打ちとなり、文醜の矛が公孫瓚の体を突き刺さうとしたとき、そこへ、一人の若者が手助けに入る。

## 外弁慶(習主席)に、人民の声届かず 特派員が見た今、実態と現実

**庶民**：以前は「ゼロコロナ」は優秀と思ったが今は日本人がうらやましい。「祖国万歳」に振られたが酷策で生活破壊。軟禁状態から抜け出せず、最低限の必需品も不足、人権無視

**陽性者**：白い防護服集団の圧に成されるままの人体、「三監=惨カン」（監視、管理、監禁）の「強制隔離」。「三悪状況」（暗い、うるさい、狭い）で生きた心地なし。招待されても2度とゴメン。普通の生活を望む。

**リスク地**：開閉センサーを取り付けられ、エアゴと「強制連行」。感染の有無に関わらず「完全隔離」（健康検査とは名ばかり）。感染よりも「いどこへ連れていかれる」か、皆それを恐れている。

**新移民潮（ブーム）**：当局の強力な締めつけ（人材、資金の流れへの警戒）がノンポリや富裕層

を中心に「人間らしい生活」を求めて国外へ“自由は想像を超えて急速に狭まる”。

**潤**：中国語のローマ字表記（ピンイン）「RUN」は「逃げる」という意味。国家に自分の「人生の手綱」を握らせたくない人たちが、自らの「足」で動き出している。習氏への不信任の票を扱い始めている。

一億弱の共産党が十三億の人民を背負い、どのような航跡を辿るか、我々、日中友好協会は見届ける責務がある！（11/27 佐藤一義）





山越拓児さんの  
世相を映す替え歌⑳

「オスプレイはいらない」  
～「ガッチャマンの歌」



♪ダメだ ダメだ ダメだ  
民家真上に 黒い影  
米軍輸送機 オスプレイ  
エンジンかけて飛び立てば  
墜落事故を繰り返す  
ダメ ダメ ダメ オスプレイ  
ノー ノー ノー オスプレイ  
力を合わせ 声をあげよう  
ノー オスプレイ 飛ばすな

♪ダメだ ダメだ ダメだ  
戦仕掛ける特殊部隊  
米軍輸送機 オスプレイ  
敵陣深く侵入し  
拉致や暗殺する部隊  
ダメ ダメ ダメ オスプレイ  
ノー ノー ノー オスプレイ  
力を合わせ 声をあげよう  
ノー オスプレイ いない

♪ダメだ ダメだ ダメだ  
東京の空支配する  
超低空飛行の オスプレイ  
航空法を守らずに  
日米合意も踏み破る  
ダメ ダメ ダメ オスプレイ  
ノー ノー ノー オスプレイ  
横田にいない 日本にいない  
ノー オスプレイ 飛ばすな

核兵器禁止条約に  
日本も参加しよう!

今こそ  
9条を世界に!

原爆再稼働  
新設絶対ダメ!

軍拡より  
攻められない  
外交を!

だれも  
憲法変えるの  
望んでない!

敵基地攻撃  
(反撃能力)は  
戦争をしかけること!

第89回  
**NO WAR! 八王子アクション**  
12月18日(日)  
14時～15時 JR八王子駅 北口 集会

**!! 朗報です!!**  
12月3日に行われた[中国百科検定]  
を受検した高校生M君が、日中友好協  
会に入会しました。百科検定はWebで  
見て、関心をもち受検したそうです。  
若者とともに、日中友好、不再戦・  
平和に一層取り組んでいきましょう。

《日中友好協会八王子支部日程》  
12月11日(日) 10:00～理事会  
13:30～ 映画会  
「葫蘆島大遣返」  
12月21日(水)～26日(月)  
中央図書館地下展示室  
パネル展「731部隊・原爆・ビキニ」  
1月22日(日) 10:00～理事会  
13:30～ 学習会  
「中国はどこへ行くのか」  
2月11日(土) 春節の会

あなたは戦争を知っていますか?  
満州を知っていますか? 葫蘆島を知っていますか?  
**映画会「葫蘆島大遣返」**  
2022年12月11日(日) 13:30～  
アミダステーション

中国の画家 **王希奇「一九四六」東京展**  
満州・葫蘆島からの引揚げ者 100 万余の人々の様子を、  
3×20mの長大な絵にしました。ぜひ見てほしいです。  
〈とき〉 2023年1月12日(木)～15日(日)  
〈ばしょ〉 北とびあ地下展示ホール  
JR京浜東北線「王子駅」下車西口徒歩1分  
\*前売りチケットは1000円 (042-664-5980 中道まで)

—おわびと訂正—  
○前号(205号)「芥川龍之介と中国旅行」の記事中『講師は芥川研究の第一人者で本も書いている佐久間徹氏』は佐久間氏から、事実ではないので削除してほしいとの申し入れにより削除します。なお、芥川研究の第一人者は、当日佐久間氏が講演したように関口安義氏です。以上、訂正し、お詫び申し上げます。  
○山越拓児さんの替え歌、204号・205号に同じ歌「キシダ総理へ」を載せてしまいました。お詫び申し上げます。

日中友好新聞は、東北アジアの平和に役立つ確かな情報と中国の文化・歴史の豊かな情報を持つ、月2回発行のタブロイド判8Pの新聞です。嫌・反中報道が溢れる中、公正・中立な報道をしています。ぜひご購読下さい。  
1ヶ月550円(送料込み) 購読申込 042-645-8411:佐藤